

杉山 淳 さん

【中小企業診断士を受験した動機】

現在、教育系会社でマスマーケティング（CM、ラジオ）や横断のキャンペーンの企画に従事しています。もともと教材の編集や講座の企画を立案する仕事していた際に、経営の基本となる経営戦略やマーケティング、財務等を体系的に学びたいと思い、MBA を考えましたが、その時に国家資格である中小企業診断士を知り、こちらを選択しました。

【受験暦】

- ・ 2009 年：1 次試験合格、2 次試験未受験
- ・ 2010 年：2 次試験初受験⇒（ABBA→B）で不合格
- ・ 2011 年：1 次試験合格、2 次試験⇒（BBBC→たしか B）で不合格
- ・ 2012 年：2 次試験⇒（ADAA→A）で不合格
- ・ 2013 年：1 次試験不合格（7 科目で 6 割超えたが、法務で足切り…）、2 次試験未受験
- ・ 2014 年：1 次試験合格、2 次筆記試験、口述試験合格

【基本的な学習サイクル】

- ・ 平日：出勤前に 2 時間＋帰宅途中など 30 分
- ・ 休日：土日いずれか 1 日は講義受講※仕事も多く、もう 1 日は仕事
とにかく仕事が忙しく、帰りが遅いので、勉強時間確保のため、平日出勤前に必ず時間を取るようになっていました。

【1 次試験の学習】

時間もないので、1 次試験は頻出項目を徹底的に攻略して、総合 7 割をとる戦略を採用しました。

某大手予備校の答練、模試のアウトプットの繰り返しのみ行いました。インプットはアウトプットの練習を通して、狙われるところだけ行いました。とくに、模試は各予備校の威信をかけて、的中を狙いにくるのでそれを利用しました。私は、自分でヤマをはる行為は時間のムダだと思えます。ポイントは、

- ・ 正解問題、不正解問題ともに、間違いの選択肢まで、なぜ違うのかを説明できるレベルにまで高めるコト！
- ・ 財務、経済は 60 分で解く訓練を行うコト
の 2 点だと思えます。

【2 次試験（2010 年：1 回目）の学習】

某大手受験期間の 2 次対策講座で勉強を開始するものの、2 次筆記試験に対する明確な解法が無く、模範解答に近づけるといふコトに集中していました。あまり力が伸びる実感もなく本番を迎えました。

この年度の敗因としては…

- ①全事例共通：どの事例にもいえる考え方の指針を身につけていなかった点
- ②事例 4：計算問題に対する慣れが不十分だった点があげられます。

【2次試験（2011年：2回目）の学習】

某大手受験機関の2次対策講座で再度勉強を開始しました。ここで、2次筆記試験の解法に出会いましたが、テクニックに走り、試験の本質を捉えられませんでした。1次試験もあたってため、消化不良感もありました。この年度の敗因としては、テクニックに走り過ぎてしまい、本質を忘れてしまった点があげられます。

【2次試験（2012年：3回目）の学習】

某大手受験機関の2次対策講座で3度目の勉強を開始しました。当時、テクニックの不足が不合格の原因だと総括していたため、テクニックの習熟に磨きをかけました。その結果、採点者に伝わりにくい、文章の答案になっていました。MMCの第3回模試のアドバイス返却の際、中居先生に1時間ほどFBをいただき、それから、読みやすさを意識した回答を心がけました。

この年度の敗因としては…

- ①事例2,4 : 事例2,4には、ノックアウト問題があり、その問題をミスしてしまった点、⇒足切り（事例2）になりました…
- ②全事例共通 : 採点者に伝わり、読みやすく、多面的な解答作成が未熟だった点があげられます。

【2次試験（2013年）の学習】

採点者に伝わり、読みやすく、多面的な解答作成ができるようにするため、MMCの通学講座で2次対策講座の勉強を開始しました。

（MMCを選んだ理由）

- ①明確な解法（MCサークル、キーワード）がある点、②採点者に伝わり、読みやすく、多面的な解答である点、③合格率が高い点 です。この年度は2次試験を受験できなかったため、悔しい一年でした。

【2次試験（2014年：4回目）の学習】

再度、14年1月よりMMCの通学コースでの受講を開始しました。

中居先生、川橋先生より、「多面性は担保しつつ、詰め込み過ぎず、要素を少し減らして、読みやすさを重視する」というアドバイスをいただいたので、「読みやすさを重視した答案を作成する」を重視しました。また、事例4の問題の難度があがっていたので、「財務は毎日1時間は必ず取り組み、ミスするポイントをまとめて攻略する」ということも心がけました。

（具体的に行ったこと）

- 全事例共通
 - ・答練（1回目）で指摘されたポイントと対策（キーワードと金型）をまとめる
 - ・再答案を時間をあけずに提出する
 - ・勉強仲間と相互添削で良い点、悪い点を指摘し、改善を図る
- これを繰り返し、精度を高めていきました。

●事例 4

- ・事例 4 の演習に加え、配布される応用計算問題、GW の財務特訓の問題をひたすら繰り返し解く
- ・ミスするポイントをまとめて、解法の鉄則とし、同じ問題に適用する

→これを繰り返し、精度を高めていきました。

●本試験対応

<本試験慣れ>

- ・1 次試験後には、初見ではありませんでしたが、本試験問題に慣れるために、過去問にも重点的に取り組むようにしました。

<びっくり対策>

- ・本試験における初見問題への対策として、各受験校の模試を直前期に解きました。びっくり対策としては有効です。

<事例 4 の戦略決定訓練>

- ・本試験の事例 4 は知らない論点や、設定が曖昧で難しい問題が出題されるので、MMC の模試では本番を想定して、解く問題、解かない問題と時間配分を決めて取り組んでいました。

<困った時の対処法>

- ・困った時の対処方法を事前に決めておきました。

私は、①設問文をそのままオウム返しに記述する、②現状の課題を克服するか、強みをさらに強化する提案を行うの 2 点です。

ここまで、長々を対策を述べていましたが、合格に必要なことを一言で言うと、「シンプル」になると思います。一文にするなら、「採点者に伝わる文章で、診断士のキーワードを使って、求められている事に多面的に答える」というコトにつきると思います。

【最後に】

ここまで、真摯に、粘り強くご指導頂いた MMC の先生方には改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。また、受験仲間・友人・家族など、まわりの多くの方の支えがあって合格できたものと感じています。感謝の気持ちを忘れず、今後の仕事や診断士活動に活かして参ります。